

生徒発表

生徒が企画する「地域と共生」…地域と連携したファッションショー…

兵庫県立龍野実業高等学校・デザイン科
森脇由紀子・久家夕奈・山田裕美子
指導教諭 清水 浄

1. はじめに

デザイン科では生徒が企画し、地域の人といっしょに取り組む3大行事がある。「夏」の小中高大学生による「わくわくアート」、「秋」の地場産業と連携した「ファッションショー」、「冬」の空き町家を会場にした卒業制作展「町ぢゅう美術館」がそれである。ここでは、今年私たちが企画を担当した校外ファッションショーについて説明する。

校外ファッションショーは、私たちが入学した平成14年に始まった。それまでは学校の文化祭で発表していただけだったが、夏休みの服の縫製から2学期のウォーキング練習、直前の舞台設営まで3か月に渡る準備を経て実施するファッションショーを、文化祭発表1回だけで終わらせるのはもったいないと、企画委員が先生に校外実施を提案し、その要求が平成14年にやっと実現した。私たちが3年生になった時に「絶対にファッションショーの企画をしたい」と思い続けた理由は、1年生でショーに参加した時に感じた大きな感動と達成感だった。

2. 地域と学校

学校は兵庫県の西方に位置し、世界遺産で有名な姫路城から西へ自動車で30分の龍野市にある。市の人口は4.8万人で、50万都市である姫路市の労働力供給地になっている。

龍野市は、江戸時代に老中や京都所司代を勤めた脇坂公の城下町として発展し、昭和初期まで地域一帯の中心地として栄えた。しかし、内陸にあるため交通の便が悪く、播磨工業地帯の姫路市の繁栄とは逆に、経済的な主導権を失っていく。近年では、どこの町にも見られるようにスーパーの進出で地元商店街が衰退し、市街地の空洞化の進行で空き家が目立つ。

町には江戸時代から昭和初期までの建物が数多く現存し、「播磨の小京都」「童謡赤とんぼの里」（作詞家三木露風の生誕地）として有名である。

地場産業は、うす口で有名なヒガシマル醤油に代表される「醤油」、揖保の糸ブランドとして全国展開している「そうめん」、姫路と併せて全国シェア70%の「皮革」の3つがある。ただ、醤油は嗜好の変化による消費の低迷が続く、皮革は低価格の中国製品輸入でシェアの減少に歯止めがかからなくなっている。

以上のような現状の中、私たちのファッションショーが少しでも町の活性化に役立てばと考えた。

3. ファッションショーの組織と方向

1) 組織

昨年までは3年生から1年生まで10人ずつでプロジェクトチームを作り実施していた

が、観客数の飛躍的な増加で今年度は3年生全員、2・1年生15人ずつで実施した。ショーのノウハウが伝わるように企画・モデル・照明・大道具など、担当ごとにリーダーは3年生、サブは2年生が務める。3年生は進路決定の時期で忙しいが、「個人の進路を最優先する」というルールとお互いの助け合いでなりたっている。

2) 方向

ショーの方向は、二つのことを議論することから始まる。

①「昨年よりいいモノをつくる」

②「私たちにしかできないことを考える」

この二つを念頭において、毎年3年生各係りが残してくれた次年度へのアドバイス・観客アンケートのまとめ、私たちの考えを元に、各担当リーダーが出席する企画会議で決定する。次年度へのアドバイスは大変参考になり、ショーのホームページ立ち上げや専門学校との共同開催など、今年度企画の大きなヒントになった。会議ではテーマも設定し、今年度は外部に対して「私たちは龍野から世界に情報を発信する」、内部に対しては「ショーの伝統化」を目指した。

4. 予算・準備

1) 予算

参加生徒から1人500円を徴収する。今年度の予算は35,000円。この金額で服の材料、縫製、メイク用具などすべてをまかなうため、ゴミの日の廃品探しや身近にあるモノの再利用などの工夫が始まる。

2) 準備

- ・ファッションショーの準備は、すべて夏休みと放課後の時間を使う。
- ・制作する服はデザイン科生徒全員がスタイル画を制作し、全員の投票で選ぶ。

5. いろいろな連携

ここに挙げるいろいろな連携は、私たちが企画するファッションショーの特徴で、お互いが連携のメリットを感じることができるタイアップ方式だと考えている。

1) 地場産業との連携

皮革組合との連携は昨年度から始まった。デザイン科への「捨てる皮があるけれど、いいものがないか」という電話からスタートし、相談を重ねるうちに別注のグラデーション模様皮革を作ってもらうまでになった。私たちにとって、皮革は服素材として大変ユニークというだけでなく、私たちが考えたデザインが将来地元でブランド化される夢を見ることが出来る分野でもある。また、皮革組合には業界に対する地元の理解の深化、将来の人材育成という目的がある。今年度は兵庫県皮革フェア・龍野市皮革まつりのイベントとして文化ホールでショーを開催し、約1,000人の観客



龍野市・皮革組合と服の打ち合わせ



工場で別注の皮革の色あわせ



老人会の皆さんの指導

を集めた。また、業界から初めての求人が2件あった。

2) 老人会との連携

布は糸の縫いほどこでごまかすこともできるが、皮革はいったんミシンをかけると縫い跡が残ってしまうため、皮革による服の制作には型紙が欠かせない。デザイン科ではファッションの授業がないので、型紙作成を指導できる先生を探してもらった。たまたま地元老人会の会長が本校の元校長先生だったことがきっかけで、老人会の3人の女性の方に、夏休みに学校へ来ていただき、教えてもらった。



完成した皮革服

また、昨年から舞台設営のため、道具の搬入出にトラック運搬をお願いしている。

3) 企業との連携

今年度二つの企業からファッションショーの協力をいただいた。

・一つは地元の製靴会社で、皮革組合を通してショーに使うオリジナルデザインの靴の制作指導をお願いした。靴のデザインは初めてだったが工場の見学や靴デザインのポイント、制作上の注意点などを教えていただき大変勉強になった。



製靴会社の靴型あわせ

・もう一つは、2年生のときにインターンシップでお世話になった造花製造会社で、花びらいっぱい服を制作するため、造花の提供をお願いしたところ、在庫処分を兼ねてたくさんのお花をいただいた。

4) 行政との連携

デザイン科は、毎年龍野市から花火大会・ふるさと文化祭のポスターの制作依頼を受けていることから、行政に対して「①地場産業の皮革を使う ②町の活性化を兼ねて空き町家でファッションショーをする」という2点に焦点を当て、官と学(行政と高校)が協力可能なことを探る会議を、龍野市に提案した。後日、市からは商工観光課、地場産業振興対策室、町並み対策室などの部署を紹介いただき、実施のたびにいろいろな業界・団体の仲介役として相談にのってもらうことになった。

5) 町づくり協議会(NPO)との連携

住民の高齢化、空き町家の増加が進む旧城



平成15年・江戸時代の味噌蔵でのショー



専門学校でモデルのウォーキング練習

下町の保存と活性化を考えるために結成されたNPOが町づくり協議会である。ショーの会場として、一昨年は昭和初期の洋館（50人収容）、昨年は江戸時代の味噌蔵（150人収容）を使用することができたり、ショー実施の目的として「町おこしや町の活性化」という視点が加わったのも、町づくり協議会との協議のお蔭で、私たち高校生の活動に大きな理解を示していただいた。

6) 専門学校との連携

昨年度の3年生が専門学校のオープンキャンパスを利用し、服の制作・ショーのポイントなどいろいろな情報を集めたことを聞き、私たちは今年度、神戸ファッション専門学校と連携することを考えた。ショーをいっしょに実施することでショーの構成や服制作ポイント、観客に対する服のプレゼンテーションなどについて教えてもらうことができた。ショーの競演は、参加生徒のショーに対するモ

チベーションを上げる効果があり、ファッション専門学校の先生・生徒からも「自分たちのファッションデザインへの刺激になった」という感想をもらった。

6. まとめとメッセージ

「3年生はこんなすごいことをするのか」と感じた1年生のときから、3年生として今年度のショーを終え「町ぢゅう美術館」を残すだけになった今、一番強く心に残ったことを挙げて、ファッションショーのまとめと後輩へのメッセージとしたい。

1) 私たちのファッションショーは、もう「龍野でしかできないファッションショー、実高にしかできないファッションショー」に変化している。「世界に発信するんだ」という意欲と希望を持とう。

2) ファッションショーは、ほんとうにたくさんの人々に支えられている。感動したという言葉もよく聞く。なぜ支えてもらえるのか、何が感動を与えるのか一人ひとりじっくり考えてみてほしい。

3) 私たちが暮らす町には古い歴史や文化、伝統がある。それを生かすことができる。このファッションショーのように「私たちの○○○」と呼べる何かを、いつかどこかで創ってみたい。これが、今年企画を担当した私たちの夢だ。



公演終了後、ファッションショー参加全員の記念写真